

25.7.3 – 7月学院福音化（シム・ジュウファン師）

今月の全体の主題は「わたしの民よ、そこから出て行きなさい」としました。

1課から4課までの内容です。

1課 なぜ奴隸として行ったのでしょうか（出3:1-20）

2課 14代の間ペリシテに苦しめられた理由は？（Iサム7:1-15）

3課 アッシリア、アラムに苦しめられた理由は何でしょうか（II列6:8-24）

4課 またバビロンに行った理由は何でしょうか（イザ40:6-31）

内容を一言で表現すれば、「なぜ神の民が奴隸、捕虜、属国に行って、なぜ世の中で苦難を受けるのか」です。この質問に対して答えから先に見つけようとはしないでください。その質問に対して、理由に対して、深い考え方をしてみましょう。

イスラエル、神様に選ばれた民でしょう。愛する神様の民です。今日の靈的イスラエルである、私と皆さんのこと語っているのです。それゆえ、これが私に関する話だなということから、その質問について理解を深く考えてみてください。

今月一か月にこの4つのタイトルについて、今日は全体を聖書的にちょっと深く見てみる時間を持ちましょう。

「摂理」—創造されたすべてに対する神様の働き

神様は創造主で、全能者です。今も最初の創造の時と同じ力をもって働いておられます。その神様の働きは、少しの誤差や失敗もありません。その神様の働き、神様の創造されたすべてのことに対する神様の干渉、これを「摂理」と言います。

「経緯」—その摂理には明らかな目的と計画がある

そして、その摂理には明らかな目的と計画があります。神様が今、休んでおられる方ではありません。

ある目的と計画に向かって、今も熱心に働いておられる方です。それを「経緯」と言います。

摂理や経緯については、皆さんには深く知る必要はありません。単にそのような意味なのかという程度で知っていてください。

それでは、どんな目的、計画を持って働いておられるのでしょうか。聖書は明確に話しています。「新しい天と新しい地」を目的としておられます。それゆえ、神の民は、その神様の摂理と経緯の中でこの世と歴史を正しく認識して見るべきです。神様が創造された世界が、何か失敗があって、誤りがあるて、それゆえに悪の者たちに掌握されたというのではありません。そして、神の民をその勢力から、はやく抜き出さなければならないので、私たちに熱心に戦って取り戻してきなさい、回復させなさい

と言われるのでもありません。この世と歴史は神の国を説明するための道具であり、手段で方法です。しばらくの間、広げられているだけのことです。その役割を果たしたら、なくなるようになっています。それを確認してみましょう。

ヨハネの黙示録6章14節

天は、巻物が巻かれるように消えてなくなり、すべての山と島は、かつてあった場所から移された。

新しい天と新しい地という実体が来れば、この最初の天と最初の地、この物質世界は、広げられていたものが、巻物が巻かれるように消えてなくなるということです。今、私たち生きているこの世は、巻物が巻かれるように消えてしまうということです。

ヨハネ黙示録21章1節

また私は、新しい天と新しい地を見た。以前の天と以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。

新しい天、新しい地を見たところ、先にあった天と地はなくなって、海もなくなったと言われています。

Ⅱペテロ3章7節

しかし、今ある天と地は、同じみことばによって、火で焼かれるために取っておかれ、不敬虔な者たちのさばきと滅びの日まで保たれているのです。

一言で、今、皆さんが生きているこの世、そして皆さんが見ている宇宙、天と地のすべてのものは、新しい天と新しい地を説明するために少しの間あるだけだということです。

模型の自動車や船や飛行機は、その実体を説明することはできますが、実体に代わることはできないでしょう。その実体がどんなものか説明し終えれば、そして実体が作られれば、その模型はなくなってしまうのです。モデルハウスがそうでしょう。私が入って住む家がこのような所なのだと説明することはできますが、そのモデルハウスに住むのではありません。それと同じです。

そのようなこの世と歴史を今、私たち生きているのですが、そこがすなわち、エジプトでありバビロンであり、ローマだということです。その中で奴隸、捕虜、属国になった状態で私たちは生きることになっているのです。

ヨハネ黙示録11章8節

彼らの死体は大きな都の大通りにさらされる。その都は、靈的な理解ではソドムやエジプトと呼ばれ、そこで彼らの主も十字架にかけられたのである。

黙示録11章では、神の民を代表する二人の証人が出てきます。彼らは、神様のみことばを証言する働きを終えた後に、死にます。そして、いま彼らの死体がどこにあるのかを説明をしているのですが、ここに「大きな都」と出て来ています。これが黙示録18章2節をみれば、バビロンのことを語っているのです。

黙示録18章2節

かれちからづよこえさけたおだいたおかれしたいあくれいすけがれい
彼は力強い声で叫んだ。「倒れた。大バビロンは倒れた。それは、悪霊の住みか、あらゆる汚れた靈の巣窟、あらゆる汚れた鳥の巣窟、あらゆる汚れた憎むべき獸の巣窟となった。

11章8節に戻りましょう。「大きな都」が「バビロン」のようだと言われ、そして靈的に言えば、「ソドムやエジプト」と呼ばれると言われます。今、皆さんと私たちが生きているこの地がそうだということです。

黙示録18章に行って、大きな都バビロン、ソドムやエジプトと呼ばれる所がどんな所かということについて少し見てみましょう。

黙示録18章4節

わたくしわたくしてんひとこえいき聞いた。「わたしの民は、この女の罪に関わらないように、その災害に巻き込まれないように、彼女のところから出て行きなさい。

このバビロンのような世の中で、どんなことが起こっているのか黙示録18章でその内容を詳しく記録をされているので、後から全体を読んでみてください。

4節を見ると、神様が「わたしの民は・・・そこから出て行きなさい」言われています。その罪に関わらずに、世の中が受けるわざわいを受けないで、そこから出て行きなさいと言われるので。そこから出て来ることを「救い」と言います。この世がどんな所かという定義を今言われているのです。罪がいっぱいになっている世の中だということです。神様を離れた世の中には、必ずわざわいにあうようになります。

その部分をローマ人への手紙のみことばを通して、もう少し詳しく見てみましょう。

ローマ1章24節

そこで神は、彼らをその心の欲望のままに汚れに引き渡されました。そのため、彼らは互いに自分たちのからだを辱めています。

ローマ1章26節

こういうわけで、神は彼らを恥ずべき情欲に引き渡されました。すなわち、彼らのうちの女たちは自然な関係を自然に反するものに替え、

ローマ 1章 28節

また、彼らは神を知ることに価値を認めなかつたので、神は彼らを無価値な思いに引き渡されました。
それで彼らは、してはならないことを行つてゐるのです。

ローマ 11章 32節

神は、すべての人を不従順のうちに閉じ込めましたが、それはすべての人をあわれむためだったのです。

これが今、私たちがいる世の中であつて、神様がわざわざそういう状態に放つておられたということです。それなら、私たちに何を分からせるためでしようか。私たちの初めの場を分かるようにされるためです。私たち人間の初めの場は、どんな場でしようか。どのように創造されたでしようか。地のちり、ホコリだったということです。一言で、無、Nothing、なにもないです。私たちの罪を暴露して、あなたがたは、そういう者で、無価値な何でもない者だということを語つておられるのです。

そして、私たちを心の欲望、情欲のとおり、無価値な思いに放つておかれ、私たちに悟らせてくださる、もう一つの理由があります。

ローマ 11章 32節の後半にある内容です。

「・・・それはすべての人をあわれむためだったのです。」

神様のあわれみがどのようなものなのかを分かるようにさせるためです。私たちをあわれむために。

バビロンのような、エジプトのような世の中に、わざわざ私たちをその中にに入れられた理由。また、捕虜、属国として生きるようにされた、その理由は、私たちがどのような者であるかを分からせようとするのと同時に、イエス・キリストの恵みを私たちに分からせるためです。

それをローマ 5章 12節と 15節で語られています。

ローマ 5章 12節

こういうわけで、ちょうど一人の人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして、すべての人が罪を犯したので、死がすべての人に広がったのと同様に――

ローマ 5章 15節

しかし、恵みの賜物は違反の場合と違います。もし一人の違反によって多くの人が死んだのなら、神の恵みと、一人の人イエス・キリストの恵みによる賜物は、なおいっそう、多くの人に満ちあふれるのです。

12節では、一人の人、アダムによって罪が入ってきて、死が入ってきたと言われています。私たちの初めの場がそうだということです。しかし 15節では、一人の人の恵みの賜物が私たちに与えられたと言われています。

キリストの義によって、私たちが神様のあわれみをうける者になったことを語っています。

それを分からせようと、このバビロン、エジプト、ソドムのような、ここに私たちを入れられたということです。

1課のタイトルが「なぜ奴隸として行ったのでしょうか」ですが、創世記15章を見れば、アブラハムにそのように語られています。

創世記15章 13節

主はアブラムに言われた。「あなたは、このことをよく知っておきなさい。あなたの子孫は、自分たちのものでない地で寄留者となり、四百年の間、奴隸となって苦しめられる。

神様が命令されたのです。神様が送られたのです。それから、そこから抜け出すのが、どんな事件でしょうか。過越祭、羊の血を塗った日。それを知りなさいというのが神様の計画です。

そして、神様は、エジプトやバビロンのような、この世から出なさいと言されました。黙示録18章4節「わたしの民よ、そこから出て行きなさい」と見ました。ところで、私たちが自分の力で出て行くことができるでしょうか。できないのです。もう一度、黙示録11章8節を見ましょう。

ヨハネの黙示録11章 8節

彼らの死体は大きな都の大通りにさらされる。その都は、靈的な理解ではソドムやエジプトと呼ばれ、そこで彼らの主も十字架にかけられたのである。

そこには、大きな都、ソドムやエジプトのような所という表現もありますが、もうひとつ表現が出てきます。それが最後の部分です。

その二人の証人、つまり神の民が死んだ、そこはどんな所でしょうか。主が十字架にかけられた所だと言われています。イエス・キリストの十字架、子羊であるイエス様の血、その血を塗った日に出エジプトして、解放されます。これを目的としているのです。

このことは、エペソ1章7節にも記録されています。

このキリストにあって、私たちはその血による贖い、背きの罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。

キリストの血による贖いによって、私たちは神様のあわれみを受ける者になりました。その恵みの豊かさを知りなさいと、奴隸、捕虜、属国に送られたのです。そして、イエス・キリストの中にいる者は、イエス・キリストの苦難も、ともにする者になったので、苦難もともに体験するのです。信じれば苦難がなくなると言われることがありますが、そうでしょうか。すべてがうまく行くようになると言われることもあります。しかし、聖書はそのようには語っていません。先ほど見た黙示録11章でも、その

ふたりの証人が神様のみことばを伝えたところ、世の中から殺されます。しかし、その苦難、その死は終わりではないのです。

黙示録11章11節12節を読んで終えましょう。

ヨハネの黙示録11章11～12節

しかし、三日半の後、いのちの息が神から出て二人のうちに入り、彼らは自分たちの足で立った。見ていた者たちは大きな恐怖に襲われた。

二人は、天から大きな声が「ここに上れ」と言うのを聞いた。そして、彼らは雲に包まれて天に上った。彼らの敵たちはそれを見た。

神様の「いのちの息」、聖霊です。神様の靈。私たちはこの地で神様の靈である聖霊で満たされ、また、その聖霊の導き受けるようにと祈るのです。「ここに上れ」という、その御声を本当に皆さんには聞いていますか。「少々お待ちください、ちょっと後から行きます」と、わざとその声を聞かない方もいるかもしれません。12節の最後に「雲に包まれて天に上った」とありますが、聖書で雲というのは神様の臨在と榮光を現します。毎日毎日、神様の臨在を感じて、神様の榮光に包まれて、神の国を生きる皆さんになるように祝福します。

今日のみことばは少し難しかったかもしれないのですが、今日、出てきた聖書箇所のその前後を必ず読んでみてください。その後に、今月の学院福音化のメッセージを聖書的に皆さんのがよく默想してください。

以上です。